

はじめに

環境科学調査センターは、市民の健康、安全および快適な生活環境を守り、本市の良好な環境を確保するため、環境行政を科学的かつ技術的に支援する調査研究機関です。

昭和 46 年に衛生研究所内に公害研究所を新設、その後、公害だけでなく幅広い環境問題に対応するため平成 4 年に環境科学研究所への名称変更を経て、平成 24 年には公害総合監視センターの機能を編入して組織改編し、現在に至ります。

さて、令和 2 年の夏も全国的な猛暑、集中豪雨の被害が相次ぎましたが、この異常気象の要因である地球温暖化への対策が一層求められています。また、生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）が名古屋市で開催されてから、令和 2 年で 10 年を迎えましたが、生物多様性保全に関しては未だ多くの課題が残されています。さらに、海洋プラスチック問題も非常に大きな注目を集めています。我々もこれらの環境問題に対して、新たな視点で調査研究を進めていきたいと考えています。

令和元年末に新型コロナウイルスが確認され、その後世界中に感染が広がり、現在でも世界各地で猛威を振るっています。感染拡大を防止しながら経済活動を進めるため、3 密（密閉、密集、密接）の回避などの新しい生活様式の徹底が求められており、当センターにおいても、環境学習の講座を実験動画の動画配信、オンライン講座の開催いたしました。これからも、状況に応じて様々な形態での情報発信・環境学習の充実に努めていきたいと思います。

また、本年は、当センターの研究員が携わった研究について、関係学会から環境保全などに寄与する優れた研究として評価され、「トレーサー成分を用いた炭素質エアロゾルの発生起源解明に関する研究」が「日本エアロゾル学会奨励賞」を受賞しました。

ここに、当センターにおける令和元年度の業務内容と調査研究の成果を年報として取りまとめました。ご高覧いただき、ご意見、ご指導いただければ幸いです。より良い環境を次世代の市民に引き継げるよう、職員一同研鑽に努めてまいりますので、今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。

令和 2 年 12 月

名古屋市環境科学調査センター
所長 太田みちる